【記事掲載】「強アルカリ性電解水生成装置　Re-AL」
「当社の事業紹介」

2017年6月2日

35 神奈川・首都圏経済　2017年（平成29年）6月2日（金曜日）

新聞社2017　（日刊）
日本経済新聞
6月2日
金曜日

神奈川

神奈川のエンジン

環境分野で商機探る

金属加工用の切削液販売

リガルジョイント

流体制御装置などを製造するリガルジョイント（相模原市）は、強アルカリ電解水を使った金属加工用の切削液「Re－AL（リアル）」の販売を始めた。これまでの切削油に比べ、廃液処理が不要になったり、腐敗臭が消えて作業環境が改善したりするなどの利点がある。加工時間の短縮や、刃物の摩耗を抑える効果もあるという。

同社の試算によると、廃液処理や、工具の交換費用などの運用コストが年間60％以上減らせる例もある。新しい切削液の製造装置の価格は一台500万円。20台程度の切削用機械を使う工場なら、コスト減により3年で導入費用を回収できる計算という。稲場純社長は「作業環境の改善をあきらめている中小工場の経営者に良さをわかってもらいたい」と語る。

アルカリ電解水を使った切削液の製造装置「Re－AL」

同社はもともと、半導体製造装置の冷却用パイプなどを大手メーカーから受託生産していた。1社依存の経営体制からの脱却を目指し、半導体製造装置のホースや継ぎ手、流量センサーなどの流体機器や熱交換器などの自社製品を開発し、製造や販売に乗り出した。販路は広がったが「半導体業界の浮き沈みに左右されることは変わらなかった」（稲場社長）。

《会社概要》
▽本　　社　相模原市南区大野台1の9の49
▽創　　業　1974年
▽売 上 高　14億円（2017年5月期推定）
▽従業員数　59人

収益源を多様化し、さらなる経営の安定を目指して近年、力を入れているのが環境事業だ。主力製品で培ったノウハウを生かし、液体を扱う新規分野の開拓をめざしている。

最初は脱臭、殺菌効果のあるオゾン製品を開発・製造し、食品工場や、カキやノリの養殖場に納入した。2008年に建て替えた本社工場は雨水をオゾン殺菌して再利用したり、太陽光発電パネルを設置するなど、当時としては環境への配慮で進んだ設備を設けた。環境事業のモデルとして、技術を紹介する意味もある。

16年には川や池の水を浄化し、飲み水や生活用水にする装置を開発した。従来の方式に比べて処理できる水の量が多いうえ、小型で移動しやすいため、災害時の水不足の解消にも役立てられるというのが売りだ。

課題は販路の拡大だ。現在も売上高の7～8割は流体機器事業が占めている。半導体業界ではある程度、決まった形の営業ができるが、環境事業では販売先が格段に幅広い。自治体など、従来は関係がなかった先にもアピールしなければならない。

6月には環境事業の製品開発と営業に特化した「環境ソリューション事業部」を新設。商機の拡大を探っている。

☎ 横浜支局 045-201-2551
川崎支局 044-222-7793